

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530347

研究課題名（和文） 創造性の高いコア人材の選抜・育成に関する実証的研究

研究課題名（英文） The empirical analysis of creativity in Japanese companies

研究代表者

開本 浩矢（HIRAKIMOTO HIROYA）

兵庫県立大学・経営学部・教授

研究者番号：90275298

研究代表者の専門分野：経営学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：創造性、独創性、思考能力、イノベーション、コア人材

1. 研究計画の概要

情報が多様化かつ増大した情報社会の現代において、企業はますます総合的な問題の解決を迫られ、物事を総合的に処理していかなければならない時代になった。同時に解決すべき問題そのものを設定する能力も必須になっている。こうした意味でも創造性は、全ての現代人にあまねく求められている資質である。しかし、これまで国内外での創造性の測定に関する理論的蓄積は、少ないのが現状である。研究が盛んに行われていた 1960 年代から 1970 年代に比べ、現在での研究は盛んであるとは言えない。たとえば、アメリカ心理学会誌に掲載された論文のうち、創造性に関する研究は 1% にも満たないのが現状である。従来の研究蓄積の中では、米国におけるギルフォードの SI モデルやトランスの TTCT が典型例として指摘できるが、これらはビジネスにおける創造性を測定するという観点からは不十分である。したがって、われわれは、ビジネスにおける創造性発揮を認知的に把握することで、そもそもビジネスにおける創造性はどのように定義され、どのような尺度で測定可能であるかを、実証的に分析する必要があると考えるに至ったのである。こうした測定ができれば、創造性の育成や促進といった手法に関する知見も明らかになり、より実践的な応用が可能になるはずである。

以上の研究背景と研究目的のもと、4 年間の研究機関において、ビジネスにおける創造性に関わる先行研究の収集と整理、ビジネスにおける創造性の定性的分析の実施、ビジネスにおける創造性に関する定量的分析の実施を研究計画の中心において、研究を進めて

いる。

2. 研究の進捗状況

現時点では、調査全体の 3 年間が経過した。3 年間の研究によって、大きく 3 つの成果が得られた。第 1 に、創造性研究の体系的レビューと経営者に対するインタビューによって、ビジネスにおける創造性に関する分析モデルを構築した。第 2 にビジネスにおける創造性を促進する要因に関するパイロット調査の実施である。第 3 に、それらの中間的な研究結果を海外学会で発表することである。

第 1 については、収集された文献資料から、創造性の概念について分析し、創造性を新奇性と有用性と捉えることが、ビジネスにおける創造性測定の基礎となることを確認した。また、経営者インタビューから得られた言及を活用して、ビジネスにおける創造性の特徴を明らかにする作業を行った。この分析結果と先行研究から、ビジネスにおける創造性を捉えるアプローチとして、パーソナリティ、能力などの 4 つの観点から捉えることが合理的であるという結論に至った。

第 2 については、A 社の営業担当者に対して、実施することができた。具体的には、まず、調査項目の妥当性チェックのため、専門家（経営学者および企業人事担当者）による内容チェックを行い、いくつかの修正を行った後、A 社の従業員を対象にパイロット調査を行った。その結果、ビジネスにおける創造性が、いわゆる IQ テストで測定される収束的思考能力とは弁別可能であること、同時に創造

性はビジネスにおけるパフォーマンス(人事考課結果など)と相関することが明らかになった。また、ビジネスにおける創造性を規定する要因として、おおきく、パーソナリティ、モチベーション、能力、環境という4要因が重要であり、それらのコントロールが創造性、ひいてはパフォーマンスを向上させることが示された。

第3については今後の詳細な分析が必要であるが、途中経過として、国際学会で報告し、当学会の論文集にも掲載された。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由) 前述の研究計画の概要と進捗状況を照らし合わせると、当初の研究目的であるビジネスにおける創造性の実態に迫る研究成果が順調に得られていると判断できる。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度に当たる本年度は、研究成果をまとめ、公表することを第1の課題としたい。その際、図書として出版することを計画している。また、本年度も昨年度同様研究成果を国際学会で報告することで、成果の公表を行いたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 1件)

Hirakimoto Hiroya(2009.7.17), "The factors which affect creativity," presented at The International Conference on Advances in Management at Colorado Springs, USA.